伊吹島

いぶきじま



Information

【基本情報】
▶面積／1.01㎢（令和2年10月1日現在）
▶本土からの距離／観音寺港から10km
▶人口／323人（令和2年10月1日現在）
▶主な産業／水産加工業（伊吹いりこ）

【島内の移動】
徒歩、のりあいバス

【問い合わせ先】
観音寺市 企画課　☎0875-23-3917

燧灘に浮かぶ、全国有数のイリコの産地。

船が伊吹島に近づくと見えてくるのは、イリバと呼ばれるイリコの加工場。島の周りにずらりと並んでいます。イリコの原材料となるカタクチイワシの漁が解禁になるのは6月～9月頃のわずか4カ月。島は活気に溢れます。



石門

伊吹島は1,400万年前の海底火山が隆起して島になった。噴火口近くの大きな岩が隆起、波に侵食され石門となった。ジオサイトとして注目されている場所。

宿泊

春日旅館 ①

真浦港から徒歩2分。家庭的な雰囲気の旅館。3日前までに予約すれば食事だけの利用もOK。島の魚介を豪快に味わう「海賊焼き」、「おまかせランチ」も要予約。素泊まり可。



観音寺市伊吹町5-2　☎0875-29-2416
ランチ/11:30～ ※3日前までに要予約

民宿 いぶき ②

島の高台に建つ眺めが自慢のお宿。季節の魚介類を提供。1日2組限定（2日前までに要予約）。マナーの守れるワンちゃんならお泊まり可。



観音寺市伊吹町1233-1
☎0875-29-2162

お泊処そのえ ③

真浦港から徒歩2分の坂道を少し上がったところにある部屋から海が見えアットホームな宿泊所（要予約）。食事なし。

観音寺市伊吹町8-1　☎0875-29-2531

伊吹産院（出部屋）跡

昔、伊吹島では出産後の約1カ月間、厳しい労働を離れて母子だけで共同生活する「出部屋」という風習があった。現在は港を見下ろす跡地に当時の門柱が残っている。また、2019年の瀬戸内国際芸術祭に出品された作品「伊吹の樹」が今も島内での生命誕生の営みを伝えている。





伊吹島のことば

伊吹島には平安時代のアクセントが残っているといわれていて、言語学者だった故金田一春彦氏が2度に渡って伊吹島に来島。その際に詠んだ歌が歌碑に刻まれ、建立されている。

伊吹いりこ

イリコは大きさによって大羽・中羽・小羽・かえり・ちりめんの5種類あり、それぞれ使い方も味わいも違う。バッチ網漁と呼ばれる双子船でイワシをとり、高速の運搬船が海上とイリバを一日何往復もする。

イリバ

海岸沿いに立ち並ぶ「イリバ」は水揚げから加工まですべてをこなすイリコ工場。







伊吹島民俗資料館

旧伊吹幼稚園跡の建物内に古い漁具や民具などを展示した島民手作りの資料館。写真などでかつての島の生活が紹介されていて、伊吹島の歴史や習俗を知ることができる。







伊吹八幡神社の神楽

伊吹島では昔から「お神楽」が行なわれている。旧暦6月1日の昼は八幡神社前、夜はかがり火を焚き荒神社前で奉納される。「玉取り」など、他ではみられない貴重な舞もある。